

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 93314 単位数 : 2

科目名	外国史B (東洋史)	科目責任者	林 俊雄
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC245		

## ■ 科目概要

この科目では、東洋史の中でも日本を含む東アジア全般の歴史を認識する上で重要である皇帝を中心とした政治体制のあり方とその変化について、各王朝における政治史の流れを踏まえながら学んでいただきたいと思います。

## ■ 到達目標

東洋史・中国史に関する理解を深め、皇帝を中心とする政治体制をはじめとする歴史に対する多角的な視野を養うことを目標としている。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
序章	皇帝制度が登場する前段階である殷・周・春秋・戦国時代の政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストをお読みいただいた上で、東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第一章・中華文明の形成なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第一章	皇帝制度が登場した秦の政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第二章・中華文明の成立の1なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第二章	前漢が成立してから皇帝制度が確立していく前漢武帝時代までの政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第二章・中華文明の成立の2・①～②なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第三章	皇帝制度が確立した前漢武帝時代以降、漢族による古代皇帝政治が幕をおろすまでの政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第二章・中華文明の成立の2・③～第三章の1なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第四章 (オールドスと匈奴～北魏の分裂)	西晋から北方の五胡十六国時代の動乱を経て、非漢族による皇帝政治の体制が最初のピークを迎えた北魏までの政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第3章・中華文明の変容の2・①、3・②と③なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第四章 (南朝の皇帝政治～第5章(名君の筆頭))	南朝から唐の“露払い”であった隋による統一とその統治、そして名君の筆頭とされる唐の太宗の時代に至るまでの政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第3章・中華文明の変容の3の①と③、第4章・中華文明の再編の1～2の①なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第5章 (唐と日本～)	唐の太宗の時代以降の律令体制の確立と崩壊に関する政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第4章・中華文明の再編の2・②～3、第5章・中華文明の危機の1なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第6章 (～科挙の確立)	五代十国時代の混乱から北宋の成立に至る政治史・思想史について、後周の世祖(柴栄)、北宋の太祖(趙匡胤)・太宗(趙匡義)による皇帝政治の再生に注目しながら学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第5章・中華文明の危機のA・2・②～④とB・1・①～②なども読んで、学んでいただきたいと思います。
第6章 (宋の君主独裁制度～)	北宋で確立した君主独裁制度とそれを支えた胥吏や専売制をはじめとする経済面に注目しながら、宋代の政治史・思想史について学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第5章・中華文明の危機のB・1・②～2なども読んで、学んでいただきたいと思います。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第7章	征服王朝と呼ばれることもある非漢族王朝の中から遼・金・元の政治史・思想史について、これらの王朝における皇帝政治のあり方に注目して学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第5章・中華文明の危機のA・2・④、B・1・④～⑥、B・1・⑧～2、B・3・⑤、第6章なども読んで、学んでいただきたいと考えています。
第8章	非漢族王朝の後を受けて登場した、複雑な性格を持つ明代の政治史・思想史について、この時代の君主独裁制のあり方に注目して学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第7章・中華文明の練成なども読んで、学んでいただきたいと考えています。
第9章 (～清朝官制の特色)	明の後を受けて登場する最後にして非漢族の王朝である清の政治史・思想史について、その官制や康熙帝・雍正帝の統治に注目して学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第7章・中華文明の止揚の1～5なども読んで、学んでいただきたいと考えています。
第9章 (乾隆の盛期—君主独裁制のピーク～)	清の政治史・思想史について、乾隆帝の統治やヨーロッパとの関係、思想弾圧などに注目して学んでいただきたいと思います。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』第7章・中華文明の止揚の2～8なども読んで、学んでいただきたいと考えています。
終章	ここまで学んでいただいたことを踏まえつつ、中国の皇帝政治について整理・考察していただきたいと考えております。テキストに加えて東洋文化史のテキストでもある『資料中国史』もご参照ください。

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	中国史における皇帝政治のあり方について、基礎的な理解を問う。
レポート	レポートの課題をよくお読みいただき、そのテーマに沿って調べ、まとめてください。テキスト以外の資料をご参照になることを推奨いたします。

## ■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

## ■ 教科書

**書名：**皇帝政治と中国  
**著者名：**梅原郁  
**出版社名：**白帝社  
**出版年：**  
**版：**  
**刷：**  
**ISBN：**

## ■ 参考書

シラバスで紹介したもの以外に、  
 宮崎市定『中国史』（岩波書店 1977・78年初版）  
 堀敏一『中国通史 問題史としてみる』（講談社 講談社学術文庫 2000年）  
 尾形勇（他）『日本にとって中国とは何か』（講談社 中国の歴史12 2005年）  
 並木頼壽・杉山文彦〔編著〕『中国の歴史を知るための60章』（明石書店 エリア・スタディーズ87 2011年）  
 などをご覧ください。

## ■ 履修上のアドバイス

皇帝政治の通史的な「流れ」と変化の理解に心がけて、テキストなどの書籍をお読みいただきたいと思います。

## ■ 自習時間

---

レポート1 課題あたり20時間、科目試験のために40時間程度学習していただきたいと思います。

## ■ 担当者のプロフィール

---

専門はヴェトナム前近代史、日越交流史。